

GIGAスクール構想に関する教育関係者への アンケートの結果及び今後の方向性について

令和3(2021)年9月3日

デジタル庁
総務省
文部科学省
経済産業省

6. 学校現場での工夫事例①

※写真やイラストは、あくまでも各事例のイメージであり、また一部を加工して使用しているものがあります。
(次頁以降も同じ)

- 本アンケートで関係者から回答頂いた、**現場での工夫事例について主なものを分類して紹介**。
※明らかな誤字・脱字や、記載を簡素化する必要がある場合等を除き、記載いただいた内容をそのまま掲載。
- デジタル技術の活用にあたっては、「**スモールステップ**」の考え方で、**できることから**取り組むことも重要。他方、単に紙のプロセスをデジタルに置き換えるだけでなく、**デジタルを踏まえた業務改革 (BPR)**を行うという視点も必要。
- こうした事例も参考に、現場で1人1台端末を含めたデジタル技術の活用が一層進むことを期待。

使い方



- ・「学習に役立てる」という大原則を確認したのみで細かいルールなどは設定せず、まずは生徒に自由に使わせてみている。
- ・ある一定のルールは決めて、あとは、問題が起こった際、その都度生徒と考えて進めていっている。
- ・一方的に学校側から決めるのではなく、生徒と共に意見を出し合い、考える機会を設けている。また、定期的に機会を設け、ルールの見直しや周知徹底についても協議を重ねる計画にしている。
- ・生徒たちで端末の利用ルールを決めました。
- ・①「タブレット導入で問題は起きる」と全職員が認識し、あらかじめ「起こるであろう問題にルールを策定して対応する」のではなく、その都度対応していくことで、生徒が自由に使用でき、能力や可能性を広げられるようにすると決めたこと。
- ・②ICT機器を使用するのが目的ではなく、生徒が思考し、判断し、表現するために使用したり、アプリのドリルで知識や技能を補うために使用するなど、使用目的を明確にしたこと。
- ・本校はiPadを導入しているが、生徒のスキルとモラルに応じて免許更新制度を導入している。グリーン免許→ブルー免許→ゴールド免許と進むにつれて、iPadの制限が解除されていくようにしている。2021年3月より導入したが、効果的な活用となっている。
- ・モラルに関しては呼びかけていく必要があるため、タブレット利用3ヶ条を作成し、生徒会で呼びかけを行なった。
- ・少年補導職員の方に来ていただいて、情報モラルのお話を聞かせていただいた後、校内でのタブレットの使用をスタートさせた。
- ・パスワードの扱いや個人情報の秘密保持などモラル教育を重点的に指導した。

スモールステップ



- ・「失敗してもいいのでとにかくやってみる」精神で取組んでいます。
- ・教員、児童ともに「まずは使ってみる」を合言葉に取り組んだ。
- ・一授業に1 ICT活動を入れる所から授業に導入すると、ストレスなくICTの導入が進むと感じた。
- ・隙間時間やモジュールの形など、短時間でも継続してタブレットを使う時間を確保するように努めた。
- ・学校の新しい日課にタブレットタイムを設けた。毎週子供たちはこのタブレットタイムをととても楽しみにしている。毎週木曜日朝の15分。
- ・朝の自習時間や算数科の時間の習熟に、1人1台端末内にある「ドリルパーク」を使っている。
- ・一年生 まずは、パスワードを打ち込み、絵を描くことから始めました。
- ・1ヶ月くらい期間を設けて、Googleスライドを用いて、1人1ヶ所 遠足として行きたいところプレゼンを作らせると、スライドを始めて使ったにも関わらず自分で学び、休み時間でもスライドをつくっているようになり、少しずつ学習に向けた使い方になった
- ・ロイロノートの活用研修を実施するだけでなく、実際に授業に入って、ロイロノートを使うことをしました。カードに「朝ごはんは何食べた?」と書き込み、児童に送信し、そのカードに書き込み、提出して比較するということをしました。簡単なことから始めてみるのが大切だと思います。
- ・オンライン授業が可能かどうか、各家庭のネットワーク環境、個々の操作力を試すために、帰りの会を自宅にて全校一斉に自宅から行いました。課題が先生方に見えたのではないかと思います。生徒にとってももしオンライン授業に急になった場合のイメージが出来たので有意義な時間だったと思います。

6. 学校現場での工夫事例②

児童生徒主体

- ・低学年のタブレット端末の使用時に、6年生に協力してもらって一緒に教えています。
- ・積極的に生徒が活用する形式を取ることで、生徒から教師が教わる流れにすると、お互い高め合うことができる。生徒の方が機能操作はすぐに対応できる
- ・委員会活動とは別に、ICT活用に興味のある生徒でチームを組み、校内のICT化を推進している。
- ・教室で起こった問題を子どもの声で共有して改善していけるよう、児童会に情報委員会を作った。
- ・生徒自らが端末を「文房具」として扱うためのアイデアを生徒会が作成し、生徒に周知している。
- ・ジャムボードでは、子供たち自身で問題作りをしたり、意見を出し合ったりする活動で使用した。
- ・自分の考えをタブレットを使って操作しながら他者に説明したり、クラスメイトの作品を取り込んでシェアしたり、生徒同士が関わるためのツールとしての活用を進めている。



発表・自己表現

- ・各自の端末から、グループのホワイトボードに、調べた事柄の要約や、意見を次々に書き込み、テーマに沿ってまとめ上げていく活動は、生徒たちの「対話」だけではなく「主体性」にもつながりました。
- ・カメラ機能を使っての班で共同制作した作品を、発表機能（Googleではスライド）を活用して、効果的に披露することができ、主体的に工夫する児童の姿を引き出した。
- ・発表会の練習のときなどに自分たちで動画にとってチェックをしていた。また、発表会の本番のときに動画を撮影し、自己評価をしていた。
- ・異学年合同の授業で統計グラフコンクールの応募に取り組んでいます。フォームを利用してアンケートを作成・実施したり、スプレッドシートから効果的なグラフの作成を目指したり、共有ドライブで情報を共有したり、生徒主体で色々なアイデアが飛び交う授業が実現出来ました。「1人1台端末」があることで、生徒の中に眠っている「やってみようという気持ち」が引き出されていったように感じました。



個に応じた学び

- ・児童一人一人に対応したリコメンド型AIドリルを宿題として導入した結果、児童個々の学力に応じた課題を提示することが可能になった。
- ・生徒をレベル分けし、個別の課題を提供することが可能
- ・課題が早く終わった児童に端末を使って、より難しい、またはその後にあった課題をさせることができる。
- ・日々の授業の板書を写真に撮ってGoogle Classroomのストリームにアップし、板書をノートに書き写すことが苦手な子のサポートに活用している。
- ・文章を書くことに苦手意識が強い児童が、自分の言葉でタブレットに話すことで、文章ができた。そのことに喜びや達成感を感じていた。
- ・数式の板書が多い授業で問題を示す際、式を理解することができずに途中であきらめてしまう生徒集団に対し、chromebookとGoogle Classroomの課題作成機能を用いて、問題を少しずつ解けるようにしたところ、板書のときに比べて生徒が問題解答にチャレンジするようになった。
- ・個人の意見を班ごとに集約し、それを先生に送信し、またそれをクラス全体で確認しているらしく、意見を言いづらい生徒、字を書くのが苦手な生徒は記入して送信するだけなので気持ちが楽だと聞いた。
- ・学習支援システムを活用することで、一人一人の学習の場が確保され、成果が現れている。

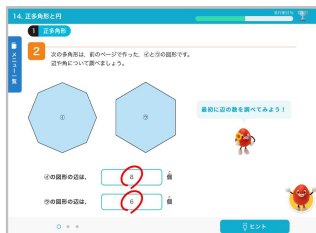
事例①・集団参加が難しい児童が、ZOOMを用いて朝の会に参加することができた。

事例②・発語が難しい児童が、ipad・アプリ「paintone」・電子黒板とのミラーリングをVOCAとして用いて、号令をかけることができた。

・学習アプリが児童の意欲を高めている。子どもたちが自分にあったアプリ、興味関心のあるアプリを活用して、できた、わかったを実感する場面、手応えを感じた場面が明らかに増えてきている。

・パフォーマンス評価の教科において、生徒個々のポートフォリオがデジタル化できた。

・音読や実技の練習、テストを自分たちで録画して送信させることで、授業時間内だけでは全員分じっくり見てやるのが難しかった実技のポイントを、一人一人しっかり見てアドバイスしてやることのできるようになった。



6. 学校現場での工夫事例③

課題・振り返り

- ・朝学習や朝のHRでの連絡事項や課題をタブレットにあらかじめ入力しておくことで、時間になったらすぐに児童が自ら学習に取り組むことができるようになった。
- ・教科で使うノートは廃止し、課題もタブレットに送り、返信、チェック後に送り返す等の毎時間使うようにしている。
- ・授業で論述問題を毎回出してもらっているが、提出を紙ではなく、**写真かスクショ**に変えた。Formsで回収し、何人か選んでOneNoteに取り込み、添削動画を作って（Win+Gの画面録画機能を使用）YouTubeの限定公開で共有している。好評。
- ・児童のワークシート（紙）を自分で撮影させたものをgoogleの「Form」機能で提出させ、児童らが（帰宅後も見られるので保護者も）自分たちの作成したワークシートを閲覧できるようにした。コロナ禍で参観できないので、保護者が**参観時に廊下に掲示したワークシートを見る感覚**を感じてもらえたらと思います。
- ・日々の宿題に課される「本読み」で、**音読を録音して学校に送信**するという取り組みは大変よいと感じました。自分の声を録音することで音読の精度が向上するだけでなく、学校の宿題の位置付けは従来からどうしても家庭と学校が切り離されて考えられがちだと感じていたのが、**端末というツールで学級と繋がる**ことができ、**家庭学習と学校学習と一体感**を感じることができます。
- ・下校後、担任教諭から**端末での問題が送信**されているため、子どもはそれを楽しみに端末を利用し、回答している。また、**端末での宿題提出も許可**されており、**子ども自身が積極的に端末**を利用している。



コンテンツの充実・活用

- ・休校中、新たな単元の学習などに、**授業の技術に優れた先生の動画**で学習していました。
- ・小1から中3までの内容の**学習ソフト**を全学年で使えるようにし、予習、復習、自習、別室登校対応に活用する予定。



不登校・特別支援等

- ・別室登校の生徒と学級の授業を繋いだり、授業ノートの写真を撮りためて、いつでも欠席者や学習したい生徒が閲覧できるようにした。
- ・不登校傾向にある児童と、在籍クラスの児童との交流を目的とした**オンライン読み聞かせ会**を実施した。不登校傾向にある児童に端末を貸し出し、家庭と学校をオンラインでつなぐことで、**円滑な登校支援**をすることができている。
- ・**特別支援学校**での使用で、学校での様子を写真に撮っていただいて持ち帰る。学校での子どもの様子が**一目瞭然**で、とても良い。
- ・**支援学級**:読み書きが困難な子どもに教科書の**読み上げ機能**を使用。今までプリントを個別に印刷していたが、ドリルパークで**1年まですぐに遡れる**し、履歴を複数の教職員で確認できるので活用進んでいる。
- ・**知的な支援**を要する児童のクラスではタブレットに個別に必要なサイトの履歴が残るため個に応じた学習に使いやすい。情緒適な児童はタブレットの操作に興味を示すため、学習に向かわせやすい。
- ・学習障害等があり**字を書くことが苦手**な生徒でも、端末で打ち込んだ文字なら本人も教員も振り返りがしやすくなる。
- ・**場面緘黙**の生徒が**スライドを使って発表**したとき、声は出なかったけれど、クラスメイトがチャットを使って頑張れと応援したり、スライドがわかりやすいとコメントしていた。そのチャットをみた、場面緘黙の生徒はとても嬉しそうだった。
- ・特別な支援を必要とする生徒で、**紙の感触に非常に抵抗**のある生徒がいます。クロムブックでキュビナ等を利用することで、**タイピングやタッチペンで文字**をかくことができ、学習を進めることが出来るようになりました。
- ・**筋ジストロフィー**の生徒がイラストをタブレットで描いて**デザイン**を作った。
- ・子どもが入院した際に、病院に端末を持ち込みネットに繋げて、**クラスの授業に参加**したり、担任の先生とメールのやりとりができた事で、**学校との繋がりを保つ**事ができ、子ども自身も宿題や課題など楽しく取り組みができた。
- ・**不登校**の子どもや、**怪我や病気**で学校に来るのが、**困難な子ども達**にでも、1台1端末のおかげで、**自分のコンディション**で、**学校の授業に遠隔**で参加できるようになりました。学校の先生方の努力と熱意だと思います。
- ・漢字学習が効果的です。漢字の書き順、運筆の向きまで、**正誤判定**くれるので、**外国人**にとってはとても便利な漢字学習ツールです。



6. 学校現場での工夫事例④

遠隔・オンライン教育

- ・休校の際、リモート授業ができたのは保護者としても良かった
- ・休校中に端末を利用して先生を含めクラスのメンバーと顔を合わせることで、家での学習に張り合いが出たように感じる。
- ・我が子のクラスメイトが濃厚接触になり二週間休んだとき、実技の授業以外では学活等も含めて担任がリモートで繋ぎ、教室にいるのと変わらないように参加させているのを見聞きして大変素晴らしいと思った。
- ・欠席日に家庭から授業に参加できていることは大変ありがたいです。
- ・昨年度の休校期間中、YouTubeの限定公開機能を用いて、児童や保護者に学習動画や懇談会で伝える話や課題の説明をした。校内で運用の流れを作り、全学級、多数の配信ができた。
- ・学習意欲はあるが、教室へ入る事が難しい生徒への学習(リモート)に活用。今まで出来なかった支援が可能になった。
- ・コロナ禍を踏まえ、オンラインによる交流および共同学習や講演会を企画実施した。これまでになかった発想が生まれました。学習方法の幅が広がったように思います。
- ・Zoomを使って、大学生や起業家と交流する企画を準備中。地域を超えて人と出会えるのがICT活用の良さだと思う。



家庭とのコミュニケーション

- ・Formsによる欠席遅刻連絡手段
- ・学校・学級からのお知らせのデジタル化（端末持ち帰りとメール等配信の併用）、児童等対象の各種アンケートのデジタル化（自宅回答による秘匿）
- ・保護者会にて、子供用端末を使って体験してもらうことをした。児童の活動に理解が得られた。
- ・端末を持ち帰り、保護者に渡してオンライン授業参観をしました。コロナ禍で学校にこられないので、保護者からはわりと好評でした。
- ・家庭での学習を写真で残し、授業で用いる。家庭学習で行った音読を、授業で聴いて、音読から伝わる互いの想像を話し合う。そのように、家庭と学校とのつながりを感じられる単元構想ができると考え、実践しています。



即時共有

- ・児童たちの考えやノートをリアルタイムで吸い上げて、モニター等に表示し、討論に使う学習を行っています。
- ・ジャムボードを使った交流は思考の見える化、共有化に効果的だと感じる。
- ・自分の考えの表現が苦手な生徒でも、1人1台端末を使い、アンケートアプリで意見を集めたり、前後の変容を見たりしています。
- ・電子黒板の画像が見えにくい時、端末に配信しながら書き加えて説明することができる。課題ができた児童から答え合わせを行ったり次の課題を配信したりできる。
- ・書くのが苦手な生徒には黒板の写真撮影や音声録音許可し、OneNoteやエバーノートを使って、WordやExcelファイル等の情報整理など活用。
- ・ヒントカードやノートに貼る印刷物など、従来は紙で印刷していたものを児童との共通フォルダにアップロードするようにしました。印刷の手間も省け、なにより児童が情報端末から開けばカラーで閲覧できます。画像データなので書き込みも可能です。配慮・支援が必要な児童はヒントカードなどを共有フォルダから開くので、周りの児童に「あいつ問題分らないんだな」と気づかれることもなく、また分からないときでも進んでヒントカードを活用して学習に参加しています。従来の、分からない児童には教師が印刷した紙のヒントカードを配る、という場面では見られない光景です。
- ・一人一台持っているので、タブレットで、教員が課題のカードを作って全員に配付し、自分の意見を書いたカードを再度提出するという授業があった。提出されたカードは一覧で子どもたちもみることができるので、時間短縮になるとともに、全員に表現の場が与えられていると感じた。
- ・teamsの共同編集で、パワーポイントのページを番号で割り振り、作品づくりを見せ合いながら活動した。
- ・教室のテレビだと後ろの方の児童がよく見えなくなるため、ゲストティーチャーを招いて授業をしてもらった際に、そのスライドを一人一人のGIGAパソコンに投影して見せた。写真や図が見やすくなり、児童も集中して見る事ができていた。



6. 学校現場での工夫事例⑤

即時集計



- ・授業の分かった点を授業終了後にgoogleフォームで理解度テストをすると、**理解度のバラツキ**がすぐに分かって便利
- ・学習プリントの配布、学習物の提出などをロイロノートで行うことが多いが、**提出順、名簿順**両方できるし、**未提出者も一目で確認**できるところはよい。
- ・テストの分析や実験のデータ処理などはスプレッドシートを書く生徒に配布し、**すぐにグラフ化**でき、考察できた。
- ・googleのアカウントをまとめて取得してくれたので、googleフォームを使って授業・講習会のアンケートなど準備と集計作業が大幅に減少し、**ほぼリアルタイム**で生徒に還元できるようになった。
- ・保護者の学校評価アンケートも、メールで回答にしたので、簡略化が図れた。
- ・授業づくりアンケートを、昨年までは、マークシート記入→スキャンしていたが、今年度はタブレット端末からの集約に変えて、断然処理が早くなった。

健康観察

- ・コロナ禍において生徒一人一人の**体調チェック**（体温・諸症状の有無）をGoogleフォームに入力させることで印刷の手間、紙による集計の手間を省くことができた。
- ・コロナ禍における**健康チェック・行動歴の把握**のためにGoogleフォームとスプレッドシートを活用している。
- ・児童の**生活アンケート**をタブレット回答にしたので、ペーパーレスや集計作業の簡略化になった。
- ・授業での活用はもちろん、**体調や学習時間の推移**などを記録して自己分析等に生かしている。
- ・毎日の**行動記録**を学習者向け端末で帰りの会に付けさせている。
- ・使用する教員が限られる中で、「**健康観察**」（自然災害・警報時の）**緊急連絡**」のツールとして強制的に使わせることで、最低限活用できる条件を整えた。そのうえで各教科の特性に合わせて活用を図る、2段階の対応が効果的だった。
- ・日々の生活の中で、端末が身近に感じられるよう、連絡帳のかわりに**カレンダーアプリ**をしたり、描画ソフトを積極的に活用したりした。



学校行事・校外学習・部活動など

- ・朝の会で伝達すべき生徒への事務連絡は、MicrosoftのTeamsで作成した各クラスのチームに投稿し、朝登校したら生徒は連絡を読むことで、朝の会で事務連絡にかける時間を短縮した。
- ・三密対策として、体育館でセレモニーを行い、その様子を各教室に配信した。
- ・コロナ禍であることもあり、集会をタブレットを活用するなど工夫した。始業式、終了式などのオンライン実施。工場見学などのオンライン見学会の利用。
- ・リモート文化祭、リモート研究発表会、オンデマンドでの学習活動指示、グループワークでのプレゼンテーション共同編集等、できる範囲で活用しています。
- ・我が市は**授業参観をライブ配信**しました。仕事を持っている保護者からしたら参観しやすく兄弟の教室を行き来せずとも並行で見ることができましたので大変良かったです。
- ・部活動にて。自分のプレーフォームは自分で見れないから、タブレットを用いて自分で撮影し、フォームを修正しつつ練習向上に役立てていた。また、コーチのプレーを教師が撮影し、生徒にロイロで送り自習練習のために役立てている。
- ・コロナ禍で行けなくなった見学を端末を利用して、**擬似的に行った**。



安全・防災教育

- ・マップのストリートビューで街を歩いたのが楽しかったです。**通学路の危険箇所を確認**しあたり良い使い方だと思います。



進路・キャリア教育

- ・中学3年生に対して、**体験入学の案内**を共有フォルダで表示し、生徒がいつでも好きな時に確認できるようにした。
- ・キャリア教育につなげて、未来の自分へ、「**今月の目当ては守れましたか。**」などの動画を送り、活用慣れさせたり、興味を高めたりする働きかけをした。



6. 学校現場での工夫事例⑥

国語



- ・国語科の授業において、文学作品の初読の感想や授業後の後日譚の創作にロイロノートを活用している。
- ・国語科では、文章の構成を考えて書く、発表のためのスライドを作る、情報を整理するためのJambordなどがメリットの大きい実践であった。
- ・主張文の作成をGoogleドキュメントを用いて行った。すぐに共有ができ、生徒同士で感想を伝えあったり、教師が手直ししたりと効果は大きかった。

算数・数学



- ・算数の授業で統計の資料を作成したりすることができた。
- ・2年生 ◎算数「3けたの数」
自分で位のはこに数カードを置いて問題をつくり、写真で撮る。付箋に答えを記入し、矢印で繋いで提出し、全体で問題を解き合う。

社会

- ・私は日本史や現代社会の授業で、授業目標や授業のながれ、授業内容、発問が入力されたスライドを各生徒に配信し、学習の効率を上げる取り組みを行っています。また、ふりかえりを入力できるファイルを各生徒に配信し、ひとり一人の生徒のふりかえりを、同じ授業を受けるすべての生徒で共有しています。
- ・高校だと発表をなかなかする生徒が少ないのですが、teamsの掲示板で政治経済についてチャット形式で意見交換をしていた。ネット上だと発言がしやすい傾向があると思います
- ・社会科の学習で、スライドを活用して課題を作成し、基礎的な知識を教科書から調べ、書き込めるようにした。そうすることで、単元に係る時数が大幅に削減され、年表作りの時間が確保できたので、歴史の流れが記憶に定着しやすくなったかな？と思いました。



理科

- ・理科の実験結果をフォームのアンケートに記入することで、クラス全体の実験結果のグラフや割合を求めることができた。
- ・授業でロイロノートを積極的に活用しています。理科や生活科での植物の観察にも写真を撮って記録に残し、成長の記録を考える活動に利用しています。
- ・4年生の理科「春の生き物」では、見つけた生き物をタブレットでとり、観察シートにまとめる。
- ・植物の栽培記録などで、直接PCに写真を取り入れることができ、PC室に行く必要がないため効率的で楽である。



外国語

- ・英語の聞き取りテストや、読むテストが一人ひとりの端末があることで、個のペースで行えてとても良いと思った。
- ・外国語の授業で自分のスピーチの練習やALTへのインタビューを録画し、視聴することによって、自分の姿を客観的に見られて、今後の改善に活かすことができることは、非常に効果的だと思います。
- ・小学校で外国語専科をしていますが、Small Talkのパフォーマンステストにタブレットを活用しています。児童どうして発話、発表を録画させ、Classroomの課題として提出させています。子供たちは、より低い緊張感の中、もてる力を十分に発揮して英語を話すことができます。また、評価のための録画も短時間で行うことができます。
- ・英語の授業で近隣校とのコミュニケーションツールとして利用した。クラス単位で自己紹介や学校紹介を行いリアルタイムでのやり取りや会話ができて児童らのやる気と必然性が格段に上がった。



体育

- ・体育の器械運動で、お手本動画を共有したり、自分たちの演技を撮影したりして学習している。
- ・体育の授業で動画を撮影し、客観的に自分を見て、分析すること
- ・体育の試技の様子を動画で記録し教えあったこと



6. 学校現場での工夫事例⑦

音楽

- ・タブレットを用いて個々で音楽の比較鑑賞ができたり、大型モニターで個々の意見をうつつて全員で共有したり、使える場面のできるかぎり活用しています。
- ・コロナ禍で歌唱やリコーダーの練習に制限があるため、夏休み期間とGIGA端末を活用して自作映像コンテンツの宿題を出した。
- ・音楽科 クラシックギターの学習で、基本的な運指や弾き方を自撮りで録画して確認できるようにした。また、提出させて評価に活用した。



家庭

- ・実習（被服、調理など）で模範動画を各自視聴することで、より理解しやすくする。
- ・コロナ禍での調理実習が難しいので、学校では作り方を説明し、家庭で実習をさせた。調理の様子やできた料理の写真を撮り、Teamsに送るようにした。家庭で、保護者とともに調理をすることが喜ばれ、回を重ねるごとに調理の技術も上達したようだ。



図画工作

- ・図画工作で、工作の作品を製作する過程を映像にのこし、編集してプレゼンをし合うことができよかったです。
- ・図画工作では、自分の好きなお気に入りの場所を撮影して交流し、作品を飾る場所を決定した。
- ・図画工作の鑑賞では、鑑賞作品の画像を一人一人が手元で拡大縮小して見ることができたり、気になる箇所を画像コピーやトリミングで示したら、言葉を書き込んだりできるので、考えを共有しやすい。
- ・図画工作で一人ひとりが紙粘土で作ったものを少しずつ動かしながらタブレットで撮影し、スライドで画像をつなげ、動いているように見せる作品を作ることができた。



道徳

- ・道徳の授業で、生徒の考えの変化を可視化、共有することができるので、変化が分かりやすかった。
- ・道徳の時間に、ロイロで個人の意見を収集し、無記名で意見を共有できる



特別活動（学校行事以外）

- ・委員会発表をMeetで行った。体育館でするよりもよく見え、よく聞こえた。
- ・委員会でクラスルームを作り、活用している。学年を横断しての連絡がスムーズにできるため、とても便利だと感じている。
- ・児童生徒会選挙の政見放送、投票、集計のデジタル化
- ・コロナ禍で生徒総会を体育館に集まって開催することができなかったので、生徒会執行部からの提案はZoomで各クラスに配信し、その提案に対する協議を各学級で話し合った。各学級の意見もZoomで共有し、最後に各自の意見（議案に対する投票）はロイロノートで回答するという形式をとった。これにより、遠隔でありながら双方性のある生徒総会を実施することができた。
- ・係や委員会紹介等を動画アプリを使って、児童が作成し、朝会等で流す。
- ・学級会の自分の考えを付箋に書き、司会グループで話し合いの見通しをもつ。（賛成はピンク、反対は水色、心配は黄色など、意見によって色を変える。）



美術

- ・美術科で制作段階を写真にとり、振り返りに使ったり、コロナ禍での鑑賞につかっている。自分の制作を振り返ったり、絵を拡大してみたりできるため生徒も喜んでいる。
- ・美術授業において、タブレットを使用した鑑賞授業を行った。席を離れずに自分のタブレットでスワイプ、ピンチインして作品をみることもできた。コロナ禍においては有効な手段であった。



6. 学校現場での工夫事例⑧

教職員の活用①

- ・ICT担当1人では推進ができないので、**管理職と数名の教員でチームを組んでICTの推進に取り組んでいる。**
- ・本校では、ICTが苦手な教員も得意な教員も、**輪番制で全員が参加するICT活用について検討し合う委員会を創設しました。**この委員会では、ICTは苦手だが授業力の高いベテランの先生の意見や、ICTは得意だが経験の浅い先生の意見など、忌憚のない意見を言い合える環境で取り組んでいる。
- ・担当者任せではなく、**管理職（教頭）が中心となって環境整備を行っている。**
- ・端末を使うことの**優位性**（試行錯誤がしやすいこと、くり返し再現できること、編集が容易であることなど）について、**教員で共通理解し、それを生かして授業で活用する方法について、検討を行った。**
- ・情報担当職員が**毎週10分のGIGA研修を継続して、使い方を教え合っている。**
- ・職員の研修第一と考え、**毎週15分程度の研修会を開いている。**職員の得意な分野を紹介し、授業で使えるスキルを共有し合い、**ポトムアップに努めている。**
- ・職員アンケートや資料共有をタブレット端末で行うことで、ICTに苦手な意識を持つ教員に「**取り敢えず触れる機会**」を初期に週1回以上設定したこと。
- ・ロイロノートの「**資料箱**」に**授業で活用できる教材をためておくこと**で、同アプリの授業での活用をすすめると同時に、**授業準備時間の削減も図っている。**
- ・**グーグルクラスルームを教科毎に作成するのではなく、クラス単位で作成し、全教科で共有することで、教員同士が「どの教科で何をしているのか」見える化したこと。**
- ・ICT機器を活用した授業を**單元ごとにパッケージ化して共有する仕組みを作った。**
- ・勤務校では、**ICT担当教員が空きコマ（学級事務、教材研究、校務分掌の仕事をしている時間）に、端末やアプリ操作に慣れていない指導者学級（複数）の補助に入ること**で、スムーズに学習者の端末利用が開始された。
- ・教員一名で複数教室、複数校にリアルで**授業動画を配信し、担当教員はそのサポートに回ることを何度か行った。**これにより、授業の準備時間の削減、上手い教員が授業するので**授業の質の向上、若手教員の勉強にもなることが期待されている。**



教職員の活用②



- ・アンケートの自動集計や健康観察などのICT化例を提示し、**教員がICT機器を使おうとするための具体的な業務効率化事例を共有している。**
- ・本区はクラウドも家庭でのネットワーク環境も整備されているため、**夏季休業中も日々の職員打ち合わせをリモートで行うなど自宅勤務をできる環境が整っている。**教員も児童も端末を持ち帰るため、夏季休業中に予定している**オンライン学級会も教員は自宅から行うことができる。**

サポート体制

- ・市内で小中学校に通う児童・生徒の「**端末（パソコン）使用のルール学校版**」があって助かります。
- ・ICT支援員の先生とのTTの授業では児童はもちろんであるが**教師は具体的に使い方を学べた。**打ち合わせる時間が短時間でも有意義な時間になった。
- ・**GIGAスクールサポーター**さんが学校に定期的にくてくれるので、メンテナンス面の対応だけでなく、**学習への指導方法も相談できる。**また、他校と兼務されているので、**同じ市内の様子も把握しやすくなった。**
- ・家庭でネットワーク環境が整っていない場合、**市からルーターの無料貸出しを行った。**契約は各家庭でする事になっていた。この対応は素晴らしいと感じた。
- ・**教室を改装し、円卓で構成したカフェのような空間を作り、リースペースとして運用している。**



保管場所

- ・登校したら**ラックから自分の端末を出して机に入れておき、使いたいときにすぐ使えるようにした。**
- ・授業の必要と感じる場面で、**自らが判断して利用をできるように、学習機の横に探検バッグをさげ、毎朝保管庫からそこへタブレットを移動させ、在校中はその中で保管した。**
- ・登校すると**タブレットをキャビネットから取り出し、ロッカーに常備している。**盗難や破損などの心配もあるが、**タブレットを気軽に使えるようになってほしい**の思いから、**必要なときにすぐに使えるようにしている。**



7. 関連施策のホームページ

★学校現場でのICT活用事例

スタディーエックス スタイル

StuDX Style

GIGAスクール構想を浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>



<https://www.learning-innovation.go.jp/>

メールマガジンの登録はこちらから

文科省
GIGA StuDXメールマガジン

<https://mailmaga.mext.go.jp/my/page/regist/T3sbTRTTsb3gT37e>

経産省
「未来の教室通信」

<https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/dbc/pub/shoumu-serviceseisaku/kyouiku/create/in/put>

★学習コンテンツ

子供の学び応援サイト

～学習支援コンテンツポータルサイト～

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm



<https://www.steam-library.go.jp/>

★研修用動画（教職員支援機構）



<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>

★ICT活用を含めた働き方改革の事例

全国の学校における働き方改革事例集

令和3年3月



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/mext_01423.html

<https://www.learning-innovation.go.jp/bpr/>

★デジタル庁ウェブサイト（関連施策の情報発信）

準公共分野のデジタル化

生活に密接に関連し国による関与が大きく他の民間分野への波及効果が大きい。介護、教育、防災、モビリティ、農業・水産業、港湾、インフラ）に関する効果的・効率的なサービス提供に取り組みます。

2. 教育

概要

これからの時代に必要な効果的な学びを実現する上では、一人一人のニーズに合った教育が重要です。GIGAスクール構想による端末配備に留まらず、教育データの標準化やクラウド上での多様な教育教材の提供を進めていくことが必要であり、学校内外のデータの効率的な連携を見据え、こうした取組を関係省庁がワンチームとなって推進していきます。

関連資料

- GIGAスクール構想の推進について（文部科学省）
- 未来の教室～Learning Innovation～（経済産業省）
- 教育情報化の推進（総務省）

※今後、随時コンテンツを追加

https://www.digital.go.jp/policies/posts/semi_public_sector